

野洲市環境基本計画推進活動における環境学習・環境教育の仕組みづくりのための 各活動の見取り図及び人材マップづくり

鎌田 忠 則 里湖づくりの会 （社会人コース）

1. はじめに

私の日頃の活動に「野洲市環境基本計画推進活動」があり、このテーマがその運営委員している私の担当となっていたことから、課題研究として取組むこととした。

2. 「見取り図及び人材マップづくり」のねらい

見取り図や人材マップは、活動目的やその内容、人材の情報を「一目で分かる図」にしようとするもので、これらの情報の共有によって各活動のネットワーク化が容易になり、そのつながりを活かした各活動のパワーアップや新展開が期待でき、その発展過程で環境学習・環境教育のニーズや仕組み作りが進むとの考えに基づく取組である。

3. 「見取り図及び人材マップ」の構成要素

環境改善活動といっても活動の数だけ課題分野があるが、各活動のネットワーク化を目指すには、その活動目的や内容から一定の「環境課題分野」分けが必要と考えられる。また強いネットワークを実現するには、各活動が何を発信し何を求めているかを明らかにし、さらに多面的な結びつきの様々な条件を明かにして、これを構成要素とした「見取り図」や「人材マップ」が大切と考え、アンケートではなく双方向性を重視して直接聞き取り調査を実施することとした。

4. 聞き取り調査の内容と方法

各活動の「環境課題分野」は、よりイメージ化し易い様に活動の目標・目的、プログラムの実施意図から独自に整理した。聞き取りの調査項目は、各活動の「基礎情報」と「課題情報」に分け、「基礎情報」では、プロジェクトの名称や実施主体、プログラムの意図や内容を、「課題情報」では、成果の指標、関心度・満足度の把握、求めている人材、活動の問題・課題、力を入れている取組、環境学習の仕組み作りへの期待、目指すライフスタイル等とした。

調査は、個人情報保護の点から直接関係者と接触出来なかったため、実施が遅れたが、6プロジェクト・プログラムの聞き取り調査が実施できた。

5. 調査結果から見えてきた「見取り図」の姿

ネットワークづくりで大切なことは、地域の人々や市民に関心や共感を得られる事と考える。従って「見取り図」は、まず地域の人々や市民向けに分かり易く、「どこで、どのような環境課題で、どのような取組がされているか、目指すライフスタイルは」の情報が示される必要がある。さらに活動する関係者が、共有したい魅力的な課題を明示する必要がある。見易さの点からして2種類の「見取り図」を考えた。その上取組みの位置情報として、野洲市の山、川、街、田畑、琵琶湖が描かれた「絵」に、情報を表にして貼り付けて「見取り図」を製作する事とした。

6. 課題研究の成果

結果的には目新しさも無く平凡な「見取り図」になってしまった。今後活動する関係者に報告し、叩き台として多くの意見をもらいながら工夫をしていきたい。